

常総市総合教育会議 会議録

【日 時】 令和4年2月2日（水）午前10時00分～午前11時25分

【場 所】 常総市役所3階庁議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
（1）学校ICTの取り組み状況について
- 4 報告事項
（1）小中学校適正配置の取り組み状況について（中間報告）
- 5 そ の 他
- 6 閉 会

出席者

教育委員：岡野克巳教育長、平井丈史委員、倉持好一委員、中山奈央委員

教育委員会：小林教育部長、西村学校教育課長、平塚学校教育課長補佐、黒崎学校教育課教育政策室室長、金子教育政策係長、
小島総務係長、青木指導課長

市長部局：神達市長、西田副市長、小林市長公室長

事務局：岡野常創戦略課長、江面常創戦略課長補佐、谷田部未来創生係長、松崎常創戦略課主幹

常創戦略課

1 開 会

ただいまから第9回常総市総合教育会議を開会する。この会議は原則として公開することとなっているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、常総市総合教育会議運営要綱第6条に基づき、会議を非公開とさせていただく。ただし、会議録については、後日、市ホームページで公開する運びとなっているので、ご了承いただきたい。なお、内容については一部非公開となる場合があるが、公開が原則となっているので、ご承知おきいただきたい。

市長

2 市長あいさつ

コロナ禍の中、市役所全体でも会議開催について悩んでいる時期であるが、コロナ対策を講じつつ、本日の会議にご参加いただき、感謝申し上げます。

学校教育現場を取り巻く環境は大きな変化を迎えている。デジタル化の波やカーボンニュートラル、また少子化の課題。これは、常総市に限らず全国的な問題であり、時代の波の変化の中、教育行政をどう対応していくかの課題である。子供への教育は未来をつくるものであり、教育委員の皆様と一緒に考えて考える機会を大事にしていきたい。

先だって、青年の主張を見させてもらった。コロナ禍を考慮し、工夫を凝らしてリモート発表とした。子供達が立派に自身の考えを主張し、改めて感動を覚えた。スポーツ・部活動も思うようにいかない中、優秀な成績を残している。

GIGAスクール構想が教育の大きな課題となっている。議題に用意しているが、学校におけるICTの取組みについて意見交換をしていきたい。

その後、適正配置について、検討委員会での検討が3月いっぱいまでかかるため、中間報告をさせていただく。

最後に、私の方から教育再生首長会議の資料を用いて説明したい。この会議は、全国の首長の内7～80人の教育に関心のある首長を集めた会合であり、先週、岸田総理への表敬訪問と合わせて文科大臣と意見交換を行った。その資料を本日共有したい。総合教育政策局の藤原局長から直接説明を受けた。この藤原局長は課長時代に首長と教育委員会の在り方を改革し、それからこの総合教育会議が全国的に始まった。

教育が大きく変わろうとしているといった内容で、いち早く情報を得られ、皆さんとも共有したい。

3 協議事項(1) 学校ICTの取り組み状況について

(学校教育課 西村課長・金子係長より資料に基づき説明)

- 市長 ICT支援員は何人いるか。
- 学校教育課 予算の関係上1名。ヘルプデスク等を委託している業者から派遣いただいている。
- 市長 1名で十分か。少ないと思うが。
- 学校教育課 国の基準は4校で1人だが、今年度から始めたところなので、運用しながら検討したい。
- 市長 家庭にwi-fi環境が無い割合は。
- 学校教育課 昨年の夏に調査したところ、約100世帯がwi-fiを借りたいとの意向であった。
- 指導課 約3年前に調査したときは、約4割の世帯のwi-fi環境が整っていた。つまり6割は環境が無い状態。コロナ禍で一斉休校になる際、100台貸し出し用を用意したところであった。しかし実際は16台しか貸し出ししていない。
- 委員 昨年3月にタブレット環境が整うと聞いてから、凄いスピードで進んでいる。児童がタブレットを利用して学習しているのを拝見し、教育現場の変化を見て凄い時代と思った。また9月に「かしのきスクール」で不登校生徒がタブレットを利用しての担任とのやり取りを拝見した。ICT支援員一人では大変ではないかと思う。
- 教育長 学校現場での指導の観点から、これからは正念場と捉えている。不登校の児童生徒の対応や双方向のやりとりなど。十人十色の対応となる。一般的にコロナ禍の中でオンラインを一律に行うというのを、これからどうしていくか。1年生には

どう対応するか、6年生はどう対応するか、入試を控える中学3年生はどう対応するか。

市長 リテラシーも含め、使いこなし方が重要となってくる。

委員 こういった会議により、市の取組みや課題、対策について私は知り得ることができるが、一般の保護者の方が知る機会が無いと思う。タブレットについても、PTAの集まりでも様々な意見「何で教科書を写せないの?」といった意見が出ている。教科書をタブレットに写せなかった事情などは知られていない。こうだからできないといった情報を上手に報告してもいいかと思う。

市長 貴重な御意見。保護者に伝わるよう説明できるとよい。

学校教育課 頂いた御意見を踏まえて、工夫して情報を発信したい。

市長 これからは教科書もデジタル化となる時代と伺った。後段で説明したい。

副市長 子供がタブレットを持ち帰ってくるが、個人の物と学校の物があって、学校の物はあまり使っていない様子。子供は吸収力が早い。生徒が主体となってICTを進める方法も一つの手段であると思う。

市長 教育現場における課題はこれからも次々と生じてくると思うが、適切に対応していきたい。

4 報告事項(1) 小中学校適正配置の取り組み状況について(中間報告)

(学校教育課 西村課長・黒崎室長が、資料に基づき説明。)

教育長 適正配置は絶対に必要になってくる。どうしてもこの議論は大人の視点になりがちだが、子供達の教育環境の視点を重視して取り組みたい。子供も大人も地域も、みんなで前向きに向かっていきたい。後ろ向きでは子供達に良くない。前向きに捉え、こういう方向が子供のためになるといった視点で、この思いを常に発信していきたい。

委員 この課題は、地域の方々や年齢や立場を越えて様々な意見がある中、向き合わなければならない課題。担当の方が何度も詳細に、丁寧に対応しているのを感じた。参加者が1名でも説明会を実施し、丁寧に向き合っていることが分かる。

市長 冒頭にも説明したとおり、3月いっぱい検討委員会の答申をお願いしている。そのうえで教育長と一緒に最終的な考え方を整理したい。

子供達の人数が減る一方、増やす努力も行っているものの、自然減が止まらない。子供が300人しか産まれない時代。今年、成人を迎えた世代は600人が産まれた時代。その半分になる。定住人口を増やす・社会減を減らす努力もしているが、自然減は止めようがない。その中で地域の小学校が無くなると悲しいといった捉え方もあるが、それよりも、多くの友達と学べる、クラス替えができるというような子供の教育環境を整えるといったプラスの考え方としたい。

5 その他

これからの教育政策について

(市長が、資料に基づき説明。)

6 閉 会

常創戦略課 貴重な御意見、また御審議に感謝申し上げます。以上をもって会議を閉会とする。